

令和7年度甲府南高等学校 第2回学校運営協議会

日 時：令和7年10月21日（火）16:10～17:10

場 所：山梨県立甲府南高等学校大会議室（1階）

（司会 教頭）

（1）開会の言葉（教頭）

（2）学校長挨拶

- ・令和6年度より二学期制へ。現時点ではうまく運用できている。
- ・夏の服装の弾力化（体育着など自由な形）
- ・部活動の活躍（県高校総体で男女が入賞。関東大会、全国大会出場多数）
- ・SSH：本年度は経過措置（JSTより200万）
- ・DXH：申請予定（次年度用の要項は未発出。前年度の要項で準備中）
- ・中学生の希望調査（昨年度より60人減。普通科が減少）
- ・オープンスクールの申し込みは微減
- ・11月8日（土）に学校見学会を実施（中学に案内を発出）
- ・11月中旬に高校定員の発表

（3）会長挨拶

- ・四季がなくなっている。体調管理に注意を。
- ・南高生の頑張りを日々感じることができる。

（4）議事（会長）

○学校評価（中間評価）について

- ・昨年度と比べて、評価が高くなった項目が多い。
- ・評価が低くなった項目の説明（課題・部活動・ルーブリックとポートフォリオ）
- ・年度末評価のお願い（メールで配信）

○来年度の学校運営について

- ・令和8年度の甲府南高校の教育について説明
- ・地元「山梨」を牽引する人材の育成を新たに加える。
- ・9月に同窓会、PTA、南高を育てる会の代表と今後のSSH事業についての話し合いをもった。
- ・SSHとDXHについての説明
- ・次年度はSSHとDXHの両方に申請する予定
- ・同窓会へ人材面および資金面での協力を依頼済み

（5）報告事項（教頭）

○資料の説明

- ・第61回緑陽祭について
- ・部活動等の大会結果について
- ・広報活動（オープンスクール・理数科説明会等）について
- ・SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の取り組みについて
- ・その他

(6) 意見交換（教頭）

○細田委員

- ・DXの必要性を感じる。文部科学省の補助金をうまく活用すべき。情報の専門教員を活用。

○石原委員

- ・ノーベル賞を受賞できる人材も必要だが、個人の多様性を認めることも大事。働かないアリにも活躍の場は必ずある。すべての生徒が持っている能力を活かす。
- ・同窓生として支援をしていきたい気持ちがある。夢があるからこそ応援ができる。

○佃委員

- ・地元山梨を引っ張っていく人材を育てていきたい。
- ・甲府南高校の生徒はどの程度山梨に戻ってきているのか。データがあって対応ができるもの。体感的にはどの程度か？

○早川委員

- ・SSHについて同窓会笹本会長と話し合いを持った。子供が学べる環境づくり。
- ・学校評価では生徒のマナーの意識が高かった。人間としてバランスが取れている。

○鳥居委員

- ・生徒が地元に戻ってくるためにどのような手立てが必要か。
- ・高校までにどのような体験ができるか。
- ・山梨県立大学でも人材育成のプログラムを実施。高校生も参加可能
- ・甲府南高校は今でも十分に頑張っている。今あるもので豊かな経験ができる。

○齋藤委員

- ・甲府南高校は学業が中心であるが、文武両道を成し遂げている。
- ・部活動やSSHの自己負担が増えて、体験できない生徒が増えているのではないか。
- ・スクールカウンセラーの活用
- ・身だしなみの向上。人間性と心の教育の重要性。
- ・20号の歩道橋の老朽化（自治会から働きかけ。政府への交渉予定）

○加藤委員

- ・生徒が作った様々な通信を見て、学校の状況がよくわかる。
- ・教員の多忙化への対応を伺いたい（行事を減らしたいが、生徒は行事を楽しみにしている）
- ・相談機能の充実化（SCの追加を申請済み）

○萩原委員

- ・中学生に学校生活が伝わるような工夫。オープンスクールに来ない生徒にも分かるようにする。
- ・頑張っているいい高校のイメージ。魅力のある高校

○山下委員

- ・授業を核にする。
- ・教員が減っていく中での対応。南高職員としての自負（やりがいのある職場）

○堀内委員

- ・DXHはなんとしても採択されてほしい。

(7) 閉会の言葉（会長）